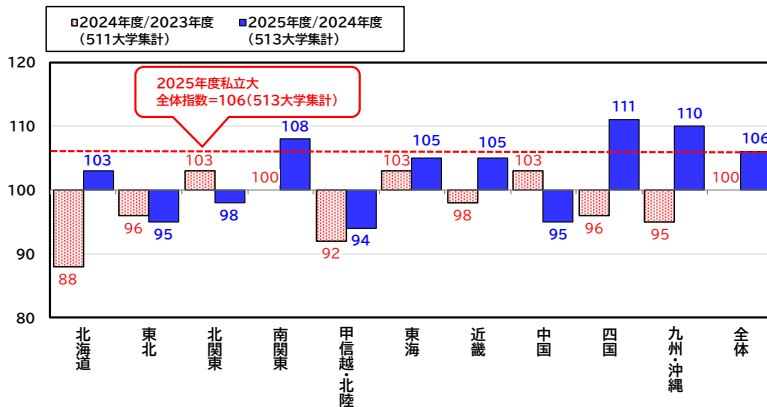


※本文中の()内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

◎地区別志願状況

□志願者数は南関東、四国、九州・沖縄が増加だが、東北、甲信越・北陸、中国等が減少

〔私立大一般選抜 地区別志願状況〕



大学本部の所在地別の志願状況では、四国(111)、九州・沖縄(110)、南関東(108)は増加、東海(105)、近畿(105)、北海道(103)はやや増加でしたが、東北(95)、中国(95)、甲信越・北陸(94)はやや減少しました。

募集人員の多い大規模な総合大学が所在する3大都市圏の動向について見ていきます。南関東(108)は増加、近畿(105)、東海(105)はやや増加となりました。南関東では、千葉工業大、日本大、東京工科大、東洋大の志願者がいずれも1万人以上増加し、特に東

京工科大は倍増しました。東海では、愛知淑徳大が2年連続の大幅増加、名城大が2年連続増加、名古屋学院大などが大幅増加しており、これが地区全体の増加に繋がりました。近畿では、近畿大の1万人以上の増加、甲南大の6千人以上の増加などが影響しました。四国では、松山大や徳島文理大の増加が影響しました。九州・沖縄は、規模の大きい九州産業大、久留米大、西南学院大、福岡大の志願者が増加しており、地区全体の増加に繋がりました。

東北、甲信越・北陸はいずれも大幅減少や減少した私立大学が多く、2年連続のやや減少でした。